第 24 回（2020 年度）国際開発研究 大来賞

『平和構築を支援する -ミンダナオ紛争と和平への道』

谷口 美代子（名古屋大学出版会、2020 年）

記念講演 「国家形成過程として「平和構築」を考える
－ミンダナオの紛争・暴力・平和の事例から何を学ぶのか？」

2021 年 1 月 13 日（水）10:00-12:00

*同講演は 10:20 頃から

谷口美代子

なぜ、リベラル平和構築論に基軸した平和構築活動が失敗に終わるのか？　現在、世界各地で発生している紛争・暴力は、新型コロナウィルス感染症パンデミックもあいまってさらに混迷を深めています。本講演では、歴史的経緯を踏まえ、分離独立紛争とその陰に隠れた実態を明らかにし、現地社会の視点から平和構築のあり方を提起した、著書『平和構築を支援する　ミンダナオ紛争と和平への道』をもとに、ミンダナオ和平の行方とともに、今後の平和構築に関する研究や実務への知の応用を考えます。

****

―主な内容―

第 1 部（20 分）

1. 「なぜ、この研究を開始したのか」 ―研究の動機―
   *多くの矛盾への違和感と疑問、実務者としての道義的責任と探求心
2. 研究の概要（目的、方法、分析概念、先行研究の問題点、結論、学術的貢献など）
3. 知の応用①：歴史と事実（第 1 次データ・情報収集と現地調査）の積み上げによる紛争・暴力を生み出す構造的メカニズム（国家－反政府武装勢力－クランの三者間の競合関係）の解明
   *前イスラーム期－イスラーム期－植民地期－独立後の統治構造・社会関係の連続性と非連続を検証することによってみえてきたものと、他国・事例への適用可能性と有用性

質疑応答

第 2 部（20 分）

1. 知の応用②：平和を生み出す構造的メカニズム（国家－反政府武装勢力－クランの協調関係）
2. 「なぜ、平和構築に歴史と事実の積み上げが重要か？」―エマニュエル・トッドの（経験主義的）思考地図*を援用した実務のための追加的視点と学術と実務を架橋することの有用性と意義
   *歴史とデータ、外在性という視点に立って一連の思考プロセス（インプット－着想－検証―分析・洞察－予測）を概観した思考の見取り図
3. 上記を基にした、今後のミンダナオ和平とへの試論（予測と実務への活用）

質疑応答